

すべての人を大切にすまちに

～ハンセン病問題から学ぶ～

問 人権センター
(大路二、キラリエ草津3階)
☎563-1177、FAX563-7070

令和2(2020)年から拡大した新型コロナウイルス感染症も、昨年5月に五類に移行し、現在は、ようやく日常生活へ戻りつつあります。しかし、流行当初は、未知のウイルスへの不安により、患者やその家族だけでなく、治療にあたる医療従事者も差別や偏見による被害を受けました。同じように社会問題となったものに、ハンセン病問題があります。

ハンセン病とは
ハンセン病は、細菌によって起こる感染症で、かつては「らい病」と呼ばれていました。現在は、細菌を発見した医師の名前から「ハンセン病」と名称が改められました。

ハンセン病は、発病すると、手足などの神経が麻痺し汗が出なくなる、「痛い」「熱い」「冷たい」といった感覚がなくなる、体の一部が変形してしまうといった症状が現れます。治療法がない時代は、障害などの後遺症が残ることもありましたが、

ハンセン病は治る病気で
昔は、有効な治療薬がなかったため、ハンセン病は「不治の病」と考えられていましたが、実際には感染力が非常に弱く、昭和18(1943)年に治療薬として「プロミン」(注射液)の有効性が確認されました。その後、さまざまな薬が開発され、現在はいくつかの飲み薬を組み合わせて服用する治療が行われ、適切な治療を受ければ確実に治る病気となっています。

患者や家族が受けた苦しみ
明治40(1907)年「癩予防二関スル件」という法律が制定され、野外生活を営むハンセン病患者を療養所に入所させました。昭和6(1931)年には新たに「癩予防法」が成立し、在宅患者を含めた全ての患者の強制的な隔離が進められてきました。

療養所では、退所も外出も許可されず、作業を強いられたり、裁判を経ない収監罰を与えられたり、結婚の条件に断種や墮胎を強いられたりするなどの人権侵害がありました。

また、患者本人だけでなく、その家族も周囲から厳しい差別を受けました。当時、患者の強制的な入所や住んでいた家の消毒などが行われたことで、周囲の人々は恐怖心を植えつけられ、患者とその家族への差別意識を生んだと考えられています。家族は近所付き合いから疎外され、結婚や就職を拒まれたり、引越越しを余儀なくされたりすることもありました。学校ではいじめに遭い、進学也希望も叶わず、身元調査をされて就職を拒否される例もあったといえます。

このような過酷な偏見や差別の中で、家族の中には、患者本人を恨んだり、やむなく縁を切らざるを得なかったりした人もいました。

昭和22(1947)年から、日本でもプロミンの使用が始まり、その後も各種の治療薬が普及していき、患者の多くが治癒するよう

になりましたが、昭和28(1953)年「癩予防法」を引き継ぐ「らい予防法」が制定されました。この法律でも、患者の隔離が継続され、明確な退所規定も設けられませんでした。

平成8(1996)年「らい予防法」が廃止され、約90年続いた隔離政策はようやく終わりました。その後、平成10(1998)年、療養所入所者たちが起こした裁判で、平成13(2001)年に隔離政策を進めてきた国の責任を認める判決がありました。これを受けて、国は入所者たちに謝罪しました。そして平成21(2009)年には新たな補償を行う法律が施行され、入所者や療養所を退所した社会復帰者たちの名誉回復、社会復帰支援、ハンセン病問題の啓発活動に取り組んでいます。

その後、元患者家族に対して、補償を行う法律も施行されました。しかし、ハンセン病に対する社会的な偏見はいまだに残っており、療養所から故郷に帰れる人は少数しかいません。

人権が尊重される豊かな社会を
新型コロナウイルス感染症とハンセン病に共通していることは、正しい知識を持つことが大切だということ、恐れるのは「人」ではなく「ウイルス」だということを、改めて確かめたいと思います。

ハンセン病問題から多くのことを学び、人権が尊重される豊かな社会をつくりあげることが、私たちみんなの願いであり、また責務なのではないでしょうか。



2015年9月に国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」を理念とする、国際社会共通の目標です。先進国と途上国が丸となって、目標の達成をめざします。市でも第6次総合計画で、SDGsの視点を踏まえたまちづくりを進め、広報くさつでは、該当する記事にアイコンを表示します。



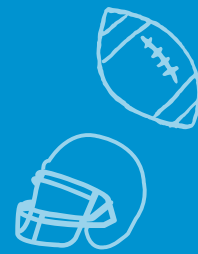
立命館大学びわこ・くさつキャンパスは開設30周年を迎えます!

立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)開設30周年を記念して、市民の皆さんが参加できるさまざまなイベントを開催しますので、ぜひお越しください。

30周年
特設サイトは
こちら



問・立命館大学 地域連携課(野路東一) ☎561-5918、FAX561-2619
・草津未来研究所(7階) ☎561-6009、FAX561-2489



観戦無料

体育会ラグビー部



公式戦である関西大学春季トーナメントをDaigas エナジースタジアム(旧クインズスタジアム)で開催します。当日はラグビー部が運営している小・中学生向けのラグビーアカデミーの体験会として、GENKIラグビーアカデミーも行う予定です。皆さんにラグビー部やスポーツを身近に感じてもらい、ラグビーで草津を元気にします!

- 公式戦 5月26日(日)午後
- GENKIラグビーアカデミー 5月26日(日)午前 対小・中学生
- 他・運動ができる服装で来てください
- ・駐車場あり

観戦無料

アメリカンフットボール部 PANTHERS

史上初の甲子園ボウル6連覇を達成した「関西学院大学FIGHTERS」をDaigas エナジースタジアムに招待し、初めて「ホームゲーム」を開催します。長きにわたり日本一の座を争ってきたライバルに勝利するため、皆さんの応援が何よりも必要です。当日は世代を越えて楽しめる体験・展示企画も行う予定です。スタジアムで、熱い応援をお願いします!

- 交流戦 6月9日(日)午後
- 他・詳しくは、イベントホームページをご確認ください
- ・駐車場あり



問 立命館大学スポーツ強化オフィス(野路東一)
☎561-3977、FAX561-4979



撮影/アプロスポーツ

Ritsumeikan Athletics Games(RAG)

アスリートにとってよりよい試合環境を提供することをめざし、さまざまな陸上競技会を学生主体で運営しています。小・中学生を対象としたスポーツ教室(RATS)も、月に数回開催しています。ぜひご参加ください。

- 草津市民スポーツ大会(陸上競技) 5月12日(日) RAGが全面的にサポート!
- RAG 8月4日(日)、10月6日(日)
- 関西私立四大学対抗陸上(関関同立戦) 10月27日(日)



RAG



RATS